

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

中央中学校区	校番 49	福山市立桜丘小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月1日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容 ○現状から何をどう改善することで、 子供たちの力が伸びるのが具体的に 話し合わせ、教職員のやる気が児童生 徒に伝わっている。 ●学力について課題がみられる。具体 的な方法をより考えられ、一人一人の 力が伸びるようにお願いしたい。	児童生徒の現状 ○友達と力を合わせて、行事や課題に取り 組もうとする児童生徒が多い。 ○自分の考えを表現したり、仲間の意見 を聞き、再考したりする力がある。 ●全国学力調査等の結果から算数・数 学、国語の基礎的な力に課題がある。 ●減少傾向にあるものの不登校傾向に ある児童生徒数の出現率が高い。 ●自己肯定感が低い児童生徒が多い。	育成する 資質・能力 めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として 統一した取組等	【学びに向かう力】 【課題発見・解決力】 【自己肯定感】 ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している 1 コミュニティ・スクールに係る取組の推進 2 校区合同で実施する授業研究 3 中学校生徒会による「学校紹介」の実施 4 校区校長会、校区教頭会、校区主任会等を通しての連携
--	---	---	---

育成する 資質・能力	「学びに向かう力」	「課題発見・解決力」	「自己肯定感」
めざす 子ども像	低 学 年 目標を決め、自分のがん ばりを振り返りながら ねばり強く取り組む。	自分の疑問・関心から課 題を見つけ、友達と協働 しながら工夫して解決 に取り組む。	自分と友達の良さや頑 張りを知り、良さを伸ば そうとする。
	高 学 年 目標達成に向けて具体 的に継続的に取り組み、 次の目標につなげる。	自ら「問い」を見つけ、 工夫して課題解決に取り 組み、新しい学びにつ なげる。	自他の良さや頑張りに 学び、自己の向上をめざ して前向きに努力する。

III 自校

学校教育目標 みんなで 学びをふかめる 心をそだてる 体をきたえる
--------------------------------------

現 状 <児童生徒> ○学習や行事に対して、友達と助け合い真面目に取り組む児童が多い。 ○縦割り班活動などの異学年交流において、学年間を超えて協力して活動し たり声をかけ合ったりすることができる。 ○学校のきまりに対する規範意識の高い児童が多い。 ●学習課題を最後まで取り組みにくい児童もおり、基礎学力の定着に課題が 見られる学年もある。 ●自分から課題を見つけたり工夫して解決したりすることに課題がある。 ●自己肯定感や自己有用感が低い傾向にある。 <授業> ○対話活動を通して学びを深めたり広げたりする児童が増えている。 ○授業のねらいに迫る対話場面を計画的に取り入れるようになっている。 ●自分の考えや思いを相手に分かりやすく表現することに課題がある。 ●学びを深める対話となるよう、対話の視点を明確にして相手に分かりやす く伝えるなど、対話の質を向上させるための取組を継続する必要がある。
---

研究	テーマ 伝え合い、学び合う児童の育成 ～対話型授業を通して学びを深める～ 内容等 ・協働的対話を通して、思考力・表現力を高める授業づくり ・基礎学力の定着 ・教科・領域との関連を図り、学びを活用し表現する場の創造
めざす授業の姿	効果的な対話場面の設定によって、児童が課題を見つけ、「教科の見方・考え方」を 働かせながら、自ら学びを深めようとする事ができる授業

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立桜丘小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
4	主体的に学ぶ児童を育成する。	★	継続	自分の考えをもとに対話を通して考えを深める学びの定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>根拠を明確にした対話による学びの深まりをねらい、思考力、表現力を育成する。</li> <li>授業の適用問題、朝のチャレンジ学習、家庭学習で適用問題に繰り返し取り組み、基礎的な学力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の考えを深める授業にするために、協働的な対話を通して、表現できる児童を80%以上にする。(児童アンケート)</li> <li>算数科の単元末テストの知識・技能が平均75点以上の児童を80%以上にする。(算数科単元末テスト)</li> </ul>								
3	互いの良さから学び合い、自己の成長につなげる児童を育成する。		継続	互いの良さを見つけ自分の良さを再発見したり自分に活かそうとしたりする児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの良さを見つけ合い、模造紙にカードを貼って、良い行動を広める。</li> <li>メディアについて生活点検を行い、家庭で目標を設定して取り組むとともに、結果を検証し改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちの良い行動を見つけ、その都度クラスごとにカードを掲示する。(学期に1枚)</li> <li>スマホ・ゲームの使用を1時間以内の児童を80%以上にする。(児童・保護者アンケート)</li> </ul>								
3	自己の課題を知り、改善に向けて主体的に取り組む児童を育成する。		継続	自分の体力課題や規則正しい生活習慣の課題を発見し、解決に向けて積極的に取り組む児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が設定した課題に応じた運動内容を選び、主体的に取り組めるようにする。</li> <li>生活習慣改善に向けて、家庭でルールを作り、取組について毎学期検証し改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動することを楽しむ児童を93%以上にする。(児童アンケート)</li> <li>児童個々に設定した「就寝」と「起床」の時刻を守ることができる児童を80%以上にする。(児童・保護者アンケート)</li> </ul>								

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。